

国営沖縄記念公園首里城地区における火災と復元に向けた取組

- ・国営公園事業として復元整備を進めてきた首里城において、令和元年10月31日に火災が発生し、正殿等主要施設が焼失。
- ・政府は、火災後速やかに「首里城復元のための関係閣僚会議」を設置し、令和元年12月「首里城復元に向けた基本的な方針」を決定。この方針の下、関係省庁における検討を進め、地元の有識者らによる「首里城復元に向けた技術検討委員会」における議論も踏まえて、「首里城正殿等の復元に向けた工程表」(令和2年3月27日同関係閣僚会議)を決定。
- ・令和4年11月3日に「首里城正殿復元整備工事起工式」を行い、正殿の令和8年の復元に向けた取組を進めている。

○国営沖縄記念公園(首里城地区)の概要

- ・首里城は昭和61年の閣議決定に基づき、国直轄の国営公園事業として復元整備を実施。平成4年に正殿等が完成。
- ・その後も整備を続け、平成31年2月に全面開園となった。
- ・国営公園周辺は県営公園として一体的に整備。



火災前の首里城正殿

○沖縄県による管理運営

- ・県の要望を踏まえ、国が管理許可を行い、平成31年2月より、県が正殿等の管理運営を担当。(県指定管理者:沖縄美ら島財団)

○火災による焼失

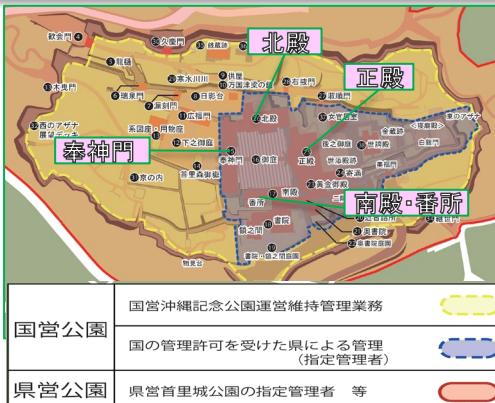
- ・令和元年10月31日午前2時41分頃火災発生。正殿等9棟焼損。
- ・警察・消防が調査し、出火原因について以下のとおり発表。

沖縄県警

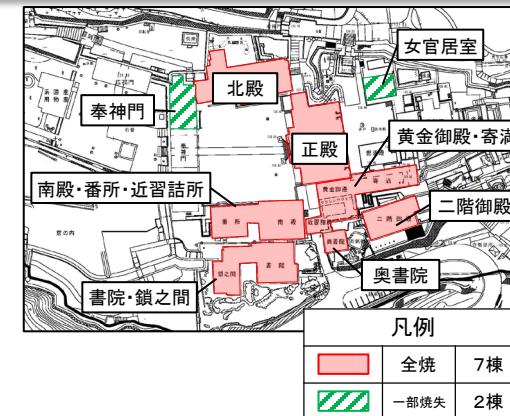
「犯罪に該当する事実は見当たらない。原因の特定に至らなかった」(R2/1/29)

那覇消防

「原因を特定できるような物証が得られなかった。火災原因の特定が難しく、出火原因については、不明とする」(R2/3/6)



首里城公園の管理区分



R元年10月31日火災による被害状況

○首里城正殿等の復元に向けた工程表(抄)

(2020年3月27日首里城復元のための関係閣僚会議)

…首里城正殿について、令和2年度(2020年度)早期に設計に入り、令和4年(2022年)中には本体工事に着手し、令和8年(2026年)までに復元することを目指すこととし、北殿や南殿等を含め…復元に向けた取組みを進めることとする。その際、復元過程の公開や観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進する。…

(別添)首里城正殿等の復元に向けたスケジュール

| | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9以降 |
|--------|---------------|-------|-----------------|-----------|------|------|----|----|------|
| 正殿 | 材料調査 (大径材) | 市場調査 | | | | | | | |
| | 設計 | | 基本設計 | | 実施設計 | | | | |
| | 材料調達 (大径材) | | | 調達 | 乾燥 | | | | |
| | 工事 | | 仮設道路 | | | | | | |
| 北殿、南殿等 | | がれき撤去 | | | 木材倉庫 | | | | |
| | | | | 発注手続(WTO) | | 本体工事 | | | |
| 北殿、南殿等 | | 撤去 | 正殿復元の施工ヤードとして使用 | | | | | | |
| | | 検討 | | | | | 工事 | | |

○事業概要



正殿2階内部
(R7 10/28塗装作業状況)



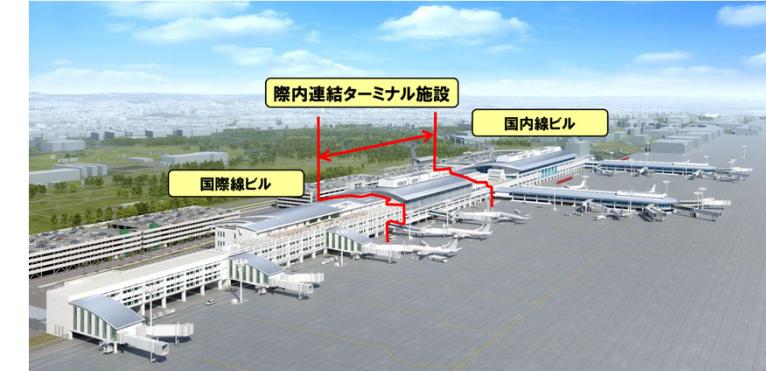
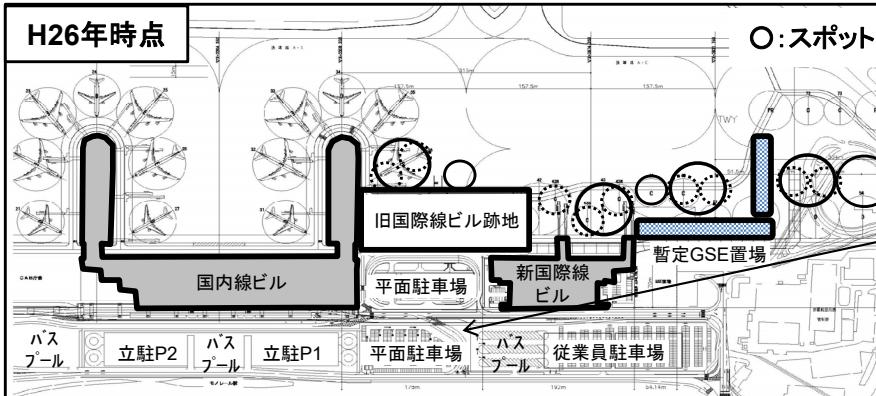
正殿 素屋根西側
(R7 11/2)



書院鎖之間庭園(南側)
(R7 10/29防火水槽施工状況)

那覇空港国際線ターミナル地域再編事業

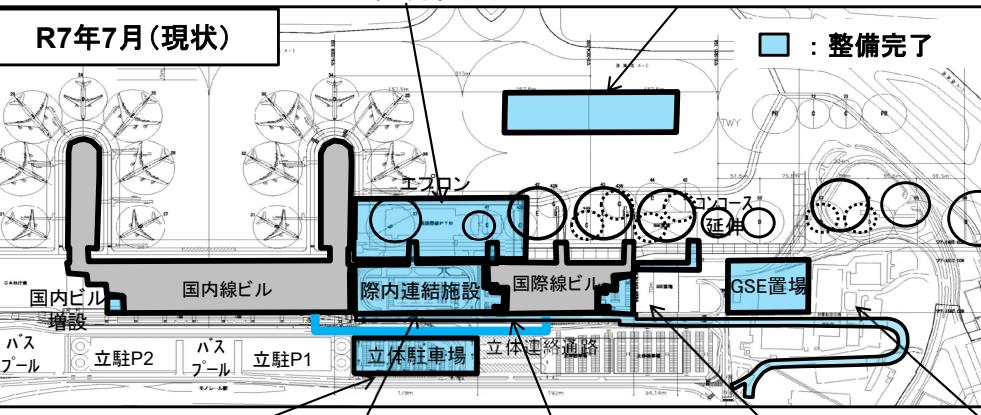
- 那覇空港では、国際航空需要の増加に伴う施設の狭隘化・老朽化に対応するため、平成21年度から国際線ターミナル地域再編事業を実施している。
- 平成26年2月に新国際線旅客ターミナルビル、平成31年3月に際内連結ターミナル施設、令和4年8月に拡張整備を行った国際線ビルCIQ施設、令和7年6月に国内線ビル(3階)に直結する高架道路の国際線ビルまでの延伸部を供用したところ。
- 今後もさらなる需要拡大を見据え、高架道路拡幅やエプロン拡張など、引き続き必要な整備を行う。



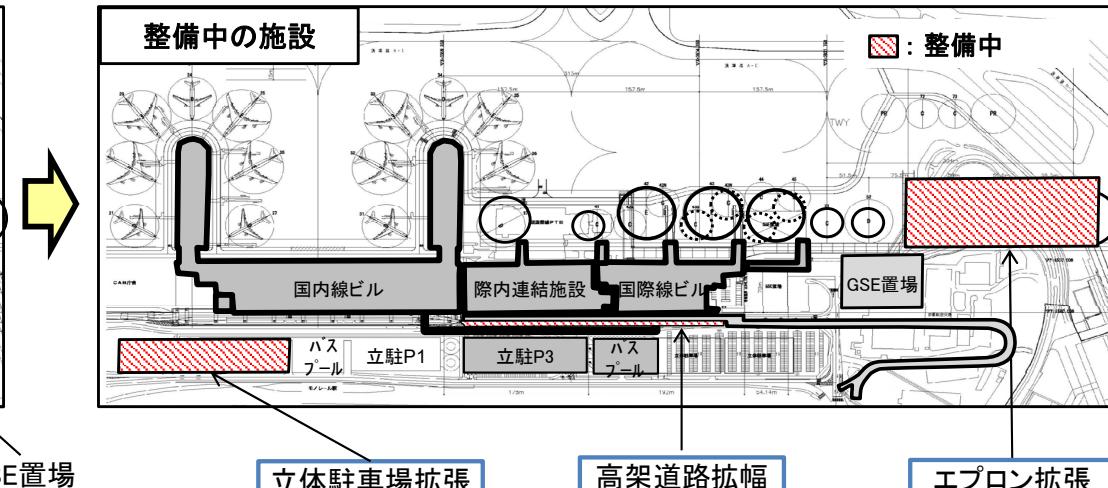
駐車場混雑状況

際内連結ターミナル施設

エプロン
(H29年5月供用)
エプロン
(R3年3月供用)



立体駐車場
(H28年9月供用)
際内連結施設
(H31年3月供用)
高架道路延伸
(R7年6月供用)
CIQ施設拡張
(R4年8月供用)
GSE置場
(H31年2月供用)



立体駐車場拡幅
高架道路拡幅
エプロン拡張

整備中の施設

沖縄におけるクルーズ船の受入れ環境の整備

- 観光がリーディング産業である沖縄において、那覇港、平良港、石垣港および本部港の各港で国際クルーズ船の受入れ環境の整備を実施。
- 現在、4港ともに岸壁整備が完了し22万トン級の大型クルーズ船の受入れが可能となっている。

那覇港

撮影:令和5年6月



事業期間: 令和元年度～令和10年度

事 業 費: 156億円

※令和4年3月に延長430m、水深12mの岸壁完成。(残事業あり)

平良港

撮影:令和5年5月



事業期間: 平成29年度～令和3年度

事 業 費: 162億円

※令和4年3月に延長420m、水深10.5mの岸壁完成。

石垣港

撮影:令和5年5月



事業期間: 平成17年度～令和11年度

事 業 費: 367億円

※令和3年3月に延長420m、水深10.5mの岸壁完成。(残事業あり)

本部港

撮影:令和4年6月



事業期間: 平成8年度～令和3年度

事 業 費: 124億円

※令和4年11月に延長420m、水深10.5mの岸壁完成。

内航フェリー・RORO船の活性化

○RORO船※の大型化に対応した岸壁延長の確保、貨物量増加に対応したふ頭用地の拡張を行う。

○那覇港は令和5年度より岸壁延長280m等を整備中。

平良港は平成24年度より事業を開始し、令和7年6月に岸壁全延長440mを供用開始。引き続き防波堤を整備中。

那覇港

撮影:令和4年8月撮影



平良港

撮影:令和7年5月撮影



事業名: 那覇港新港ふ頭地区ふ頭再編整備事業

事業期間: 令和5年度～令和9年度

事業内容: 岸壁、港湾施設用地、ふ頭用地、臨港道路

事業費: 224億円

事業名: 平良港漲水地区複合一貫輸送ターミナル改良事業

事業期間: 平成24年度～令和8年度

事業内容: 岸壁、港湾施設用地、ふ頭用地、臨港道路、防波堤等

事業費: 168億円

※RORO船:「ROLL-ON ROLL-OFF 船」の略。貨物を積んだトラックやトレーラーをそのまま運ぶことの出来る船舶。